

スカイ（静岡県磐田市、金澤和孝社長）は、一般住宅から大型の非住宅木造建築物まで幅広い需要に対応している。2023年度の加工数量は約9万坪。同社は設備投資を随時実施して生産効率を高めており、物流や配送面についても早い段階から積極的に改革を進めて全社的な生産管理システムとともに合理化を図ってきた。

デポ活用や各種連携で効率向上

独自の物流・配送体制確立

スカイ

豊岡エリアで本社工場と豊岡太郎馬工場を、船明エリアで羽柄工場の3工場を擁する。2024年問題に際しては、自社で実施している配送業務を強化して対応しているほか、配送業者や顧客との連携を強めている。物流拠点について

また、木軸壁パネルは、本社拠点のほかに、顧客に代わって在庫管理や配送を行うPL（サードパーティ・ロジスティクス）事業も実施できる体制を整えている。最近では、非住宅木造物件の増加から直接納品というターンの増えたことから、物流拠点の使い分けがさらに重要になっている。同社はOLTも使用している。これらパネルや長尺の構造用集成材などの配送に層の注意が必要な案件への対応のほか、納材の積み重ね、積み込み時間の短縮化や作業の安全性の確保などを進めている。今後

配送計画を立案・実施するため、分納が多し、トラックを自社で12台、契約運送会社で基本8台を使用している。これまでに顧客に運送業の免許を取得し、顧客に代わって在庫管理や配送を行うPL（サードパーティ・ロジスティクス）事業も実施できる体制を整えている。最近では、非住宅木造物件の増加から直接納品というターンの増えたことから、物流拠点の使い分けがさらに重要になっている。同社はOLTも使用している。これらパネルや長尺の構造用集成材などの配送に層の注意が必要な案件への対応のほか、納材の積み重ね、積み込み時間の短縮化や作業の安全性の確保などを進めている。今後



本社拠点のストックヤード